

# DIAM 8 資産バランスファンドN <DC年金>

追加型投信／内外／資産複合（インデックス型）

## 受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主としてマザーファンドへの投資を通じて、実質的に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券に投資し、基本アロケーションによる合成ベンチマークに概ね連動した投資成果をめざして運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2020年1月15日～2021年1月12日

第8期	決算日：2021年1月12日	
第8期末 (2021年1月12日)	基準価額	13,282円
	純資産総額	8,276百万円
第8期	騰落率	2.3%
	分配金合計	0円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。  
(注2) △（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

## ■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

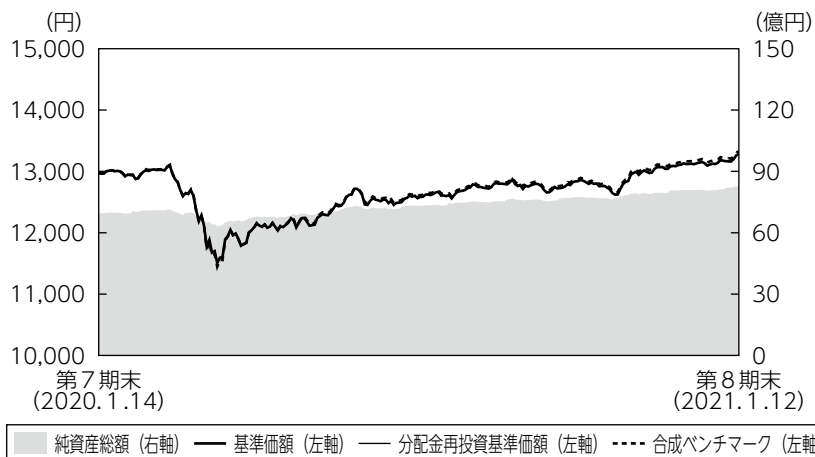
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

## 運用経過の説明

### 基準価額等の推移



第8期首：12,978円  
 第8期末：13,282円  
 (既払分配金0円)  
 騰落率：2.3%  
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額および合成ベンチマーク（委託会社が独自に合成した指数）は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。なお、合成ベンチマークについては後掲の<当ファンドの合成ベンチマークについて>をご参照ください。

### 基準価額の主な変動要因

新型コロナウイルスの影響長期化や景気減速懸念等を背景に貸貸市況への影響が懸念され国内外のリート市場が下落したこと等がマイナスに寄与しました。一方、世界的な大規模金融緩和や財政出動の動き、都市封鎖解除後の景気回復期待を好感した国内外の株式市場が上昇したことや、欧米での金融緩和長期化観測等を受けた海外金利の低下（債券価格は上昇）がプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。

### ◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
国内株式パッシブ・ファンド（最適化法）・マザーファンド	9.3%
国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド	△0.5%
外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンド	10.1%
外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンド	4.3%
エマージング株式パッシブ・マザーファンド	10.8%
エマージング債券パッシブ・マザーファンド	△0.4%
J-R E I Tインデックスファンド・マザーファンド	△13.5%
外国リート・パッシブ・ファンド・マザーファンド	△16.3%

## 1 万口当たりの費用明細

項目	第8期		項目の概要
	(2020年1月15日 ～2021年1月12日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	34円	0.268%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は12,653円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(17)	(0.131)	
(販売会社)	(14)	(0.109)	
(受託会社)	( 3)	(0.027)	
(b) 売買委託手数料	1	0.011	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(株式)	( 1)	(0.008)	
(新株予約権証券)	( 0)	(0.000)	
(先物・オプション)	( 0)	(0.002)	
(投資信託受益証券)	( 0)	(0.000)	
(投資証券)	( 0)	(0.001)	
(c) 有価証券取引税	2	0.017	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	( 2)	(0.014)	
(新株予約権証券)	( 0)	(0.000)	
(投資信託受益証券)	( 0)	(0.000)	
(投資証券)	( 0)	(0.003)	
(d) その他費用	3	0.023	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 その他は、信託事務の処理に要する諸費用等
(保管費用)	( 2)	(0.013)	
(監査費用)	( 0)	(0.004)	
(その他)	( 1)	(0.007)	
合計	40	0.319	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。

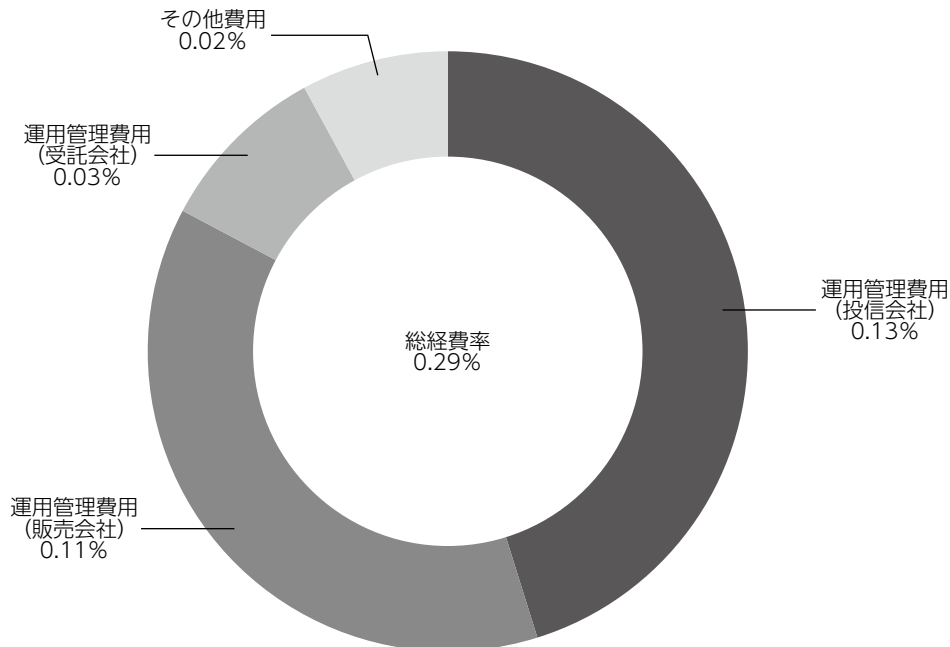
(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

**(参考情報)**

## ◆総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.29%です。



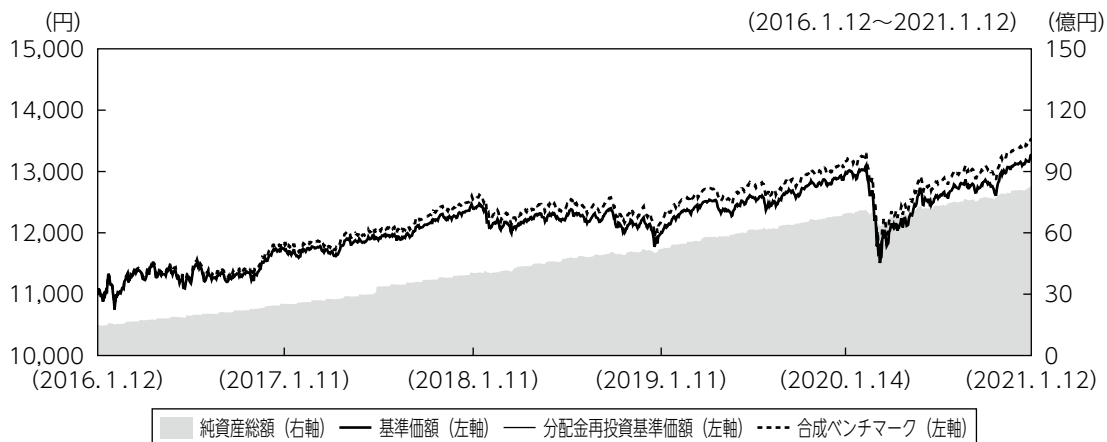
(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額および合成ベンチマーク（委託会社が独自に合成した指数）は、2016年1月12日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2016年1月12日 期首	2017年1月11日 決算日	2018年1月11日 決算日	2019年1月11日 決算日	2020年1月14日 決算日	2021年1月12日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	11,046	11,738	12,395	12,011	12,978	13,282
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	6.3	5.6	△3.1	8.1	2.3
合成ベンチマークの騰落率 (%)	—	7.1	6.0	△2.7	8.1	2.7
純資産総額 (百万円)	1,480	2,532	4,033	5,223	6,963	8,276

## 投資環境

国内株式市場は、期初から2020年3月半ばにかけては新型コロナウイルスの感染拡大による景気への影響が深刻になるとの見方が広がり急落しましたが、4月から6月にかけては、感染拡大に鈍化の兆しが見られたことや世界各国での経済対策などを要因として値を戻す展開となりました。その後、7月から10月までは、ほぼ横ばいの推移となりました。期末にかけては、世界的な低金利の継続や新型コロナウイルスワクチン開発への期待、米国での追加経済対策などを要因として上昇しました。

国内債券市場は下落しました。期初から2020年2月にかけては新型コロナウイルスの感染拡大に伴う世界的な景気悪化への懸念が強まり利回りは低下したものの、3月半ばには、リスク性資産の価格の反発を受けて利回りは上昇（価格は下落）しました。4月から12月にかけては新型コロナウイルスの動向を注視する展開となり方向感を欠きました。12月の下旬から期末にかけては国内株式市場が高水準で推移したことを受けて利回りは上昇しました。

先進国株式市場は上昇しました。米国市場は期初は堅調に推移していましたが、2020年2月下旬から3月下旬にかけては世界的な新型コロナウイルスの感染拡大から急落しました。3月下旬以降、米景気対策法案への期待感などから反発し、その後も欧米における感染拡大から調整する場面もありましたが、経済活動正常化への期待感や新型コロナウイルスワクチン開発の進展などを受け底堅く推移しました。欧州市場は、急落後の反発力に欠ける市場もあり、前期末比では各国市場まちまちの値動きとなりました。

先進国債券市場では、米国債、ドイツ債の利回りはともに低下しました。米国債利回りは新型コロナウイルスに伴う景気減速対策としてF R B（米連邦準備理事会）による緊急利下げや2023年末までのゼロ金利と量的緩和の継続を示唆したことにより利回りが大幅に低下しましたが、足元では新型コロナウイルスのワクチン開発進展への期待を受けて上昇し始めました。ドイツ債についてもE C B（欧州中央銀行）の追加金融緩和策により利回りが低下しました。

新興国株式市場は上昇しました。期初は中国における新型コロナウイルスの感染拡大を受け、軟調な展開となりました。さらに2020年2月下旬以降、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって、長期的な景気低迷が意識され大幅に下落しました。その後も、米中の対立激化やインド、ブラジルなどにおける新型コロナウイルスの感染拡大が意識され調整する場面も見られましたが、いち早くプラス成長に転じた中国の景気拡大への期待やワクチン開発の進展などから堅調に推移しました。

新興国債券市場は上昇しました。2020年3月には新型コロナウイルスの感染拡大による経済悪化懸念や原油価格の急落などを背景に、市場は大幅に下落しました。その後は、欧米での経済活動再開に伴う景気回復期待や、新型コロナウイルスのワクチン接種への期待感、米国大統領選挙でバイデン氏が勝利したことなどから大幅に上昇しました。期末にかけては感染再拡大を受けてやや弱含みました。米国長期金利が大幅に低下し、対米国債スプレッド（利回り格差）は拡大しました。

国内リート市場は下落しました。新型コロナウイルスの感染拡大が世界的な規模となり、長期的な経済停滞への懸念により2020年2月下旬から3月中旬にかけて大幅な下落となりました。その後は新型コロナウイルスのワクチン開発への期待を背景に緩やかに値を戻す展開となり、期末にかけては国内の感染者数が再拡大したものの、欧米でのワクチン接種開始や米国の追加経済対策決定などが相場を支えました。

外国リート市場は下落しました。各国リート市場は期初は上昇傾向で推移していましたが、2020年2月下旬以降は新型コロナウイルスの感染拡大懸念により大幅に下落しました。期半ばにかけて米国と豪州リート市場が徐々に下げ幅を縮小した一方で、欧州リート市場は一進一退の動きとなりました。期末にかけては経済活動再開への期待や新型コロナウイルスワクチンの治験で有望な結果が示されたことから上昇する局面がありましたが、いずれの市場も前期末比では下落となりました。

為替市場では主要通貨に対してまちまちな動きとなりました。ドル/円相場は、2020年2月から3月にかけて新型コロナウイルスの感染拡大を受けたリスク回避の動きや世界的なドル需要の高まりが交錯し相場が振れた後、米中対立の警戒や金融緩和の長期化観測、先々の景気不透明感等から円高ドル安の動きとなりました。ユーロ/円相場については復興基金設立への期待等により5月以降は円安ユーロ高の動きとなりました。その他の国々については概ね期初からは円高となりました。

## ■ ポートフォリオについて

当ファンドでは、以下の基本アロケーションによる合成ベンチマークに概ね連動した投資成果をめざし、各マザーファンドへの投資比率が基本アロケーションから大きく乖離しないよう運用を行いました。

### <基本アロケーション>

国内株式10%、国内債券57%、先進国株式（除く日本）10%、先進国債券（除く日本）3%、新興国株式5%、新興国債券5%、国内リート3%、先進国リート（除く日本）3%、短期金融資産4%

#### ● 国内株式パッシブ・ファンド（最適化法）・マザーファンド

ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）（配当込み）のリスク特性に概ね一致したポートフォリオを構築しました。

#### ● 国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド

ベンチマークであるNOMUR A-BPI総合の銘柄入れ替えや、資金の流入・流出に応じて適宜債券の売買を実施し、リスク特性をベンチマークに極力一致させたポートフォリオを構築しました。

●外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンド

ベンチマークであるMSCIコクサイ・インデックス（円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし）のリスク特性に概ね一致したポートフォリオを構築しました。

●外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンド

ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース、為替ヘッジなし）とリスク特性を極力一致させたポートフォリオを構築しました。

●エマージング株式パッシブ・マザーファンド

ベンチマークであるMSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし）のリスク特性に概ね一致したポートフォリオを構築しました。

●エマージング債券パッシブ・マザーファンド

ベンチマークであるJPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円換算ベース・為替ヘッジなし）とポートフォリオのリスク特性を概ね一致させたポートフォリオを構築しました。なお、運用の基本方針で定められた格付による債券組入制限により、相対的に信用力の低い国の債券には投資しませんでした。

●J-REITインデックスファンド・マザーファンド

リートの実質組入比率を高め、ベンチマークである東証REIT指数（配当込み）との連動性を保つように努めました。また、ベンチマークの構成銘柄の変更に応じたポートフォリオのリバランスを行い、資金の流入・流出に応じたきめ細かなポートフォリオ調整を実施し、ベンチマーク指数と同等のリスク特性を維持しました。

●外国リート・パッシブ・ファンド・マザーファンド

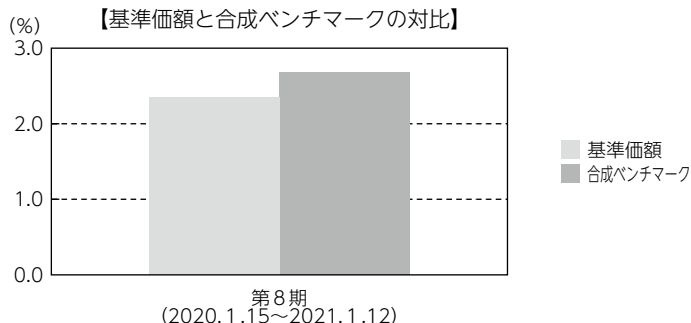
ベンチマークであるS&P先進国REITインデックス（除く日本、円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし）とポートフォリオのリスク特性を極力一致させることで、ベンチマークに連動する投資成果をめざしたパッシブ運用を行いました。



## 合成ベンチマークとの差異について

合成ベンチマークは前期末比で2.7%上昇しました。

当ファンドの騰落率は合成ベンチマーク比で△0.3%と、信託報酬の影響を除くと合成ベンチマークにほぼ連動した投資成果となりました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

## 分配金

当期の収益分配金につきましては、基準価額水準および市況動向等を勘案し、無分配とさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## 分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	当期
	2020年1月15日 ～2021年1月12日
当期分配金（税引前）	－円
対基準価額比率	－%
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	3,281円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

## 今後の運用方針

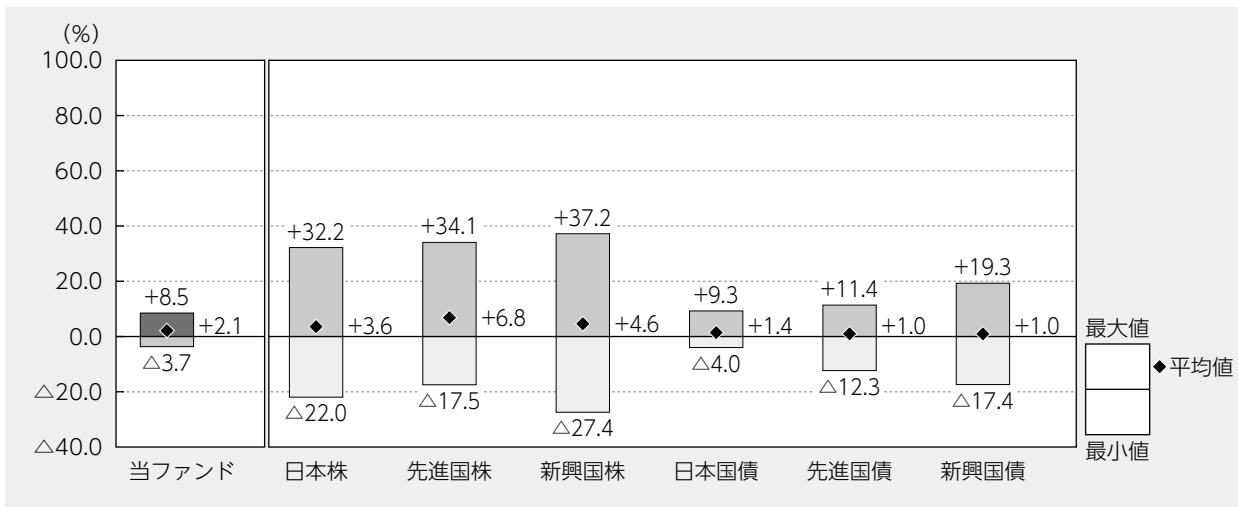
引き続き、合成ベンチマークに概ね連動した投資成果が得られるよう、各マザーファンドへの投資比率が基本アロケーションから大きく乖離しないよう運用を行います。

- 国内株式パッシブ・ファンド（最適化法）・マザーファンド  
引き続き、ベンチマークに連動する投資成果を目標としたパッシブ運用を行います。
- 国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド  
引き続き、ポートフォリオのリスク特性をベンチマークに極力一致させることで、ベンチマークに連動する投資成果をめざしたパッシブ運用を行います。
- 外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンド  
引き続き、ベンチマークに連動する投資成果をめざします。
- 外国債券パッシブ・ファンド・マザーファンド  
引き続き、ベンチマークとポートフォリオのリスク特性を極力一致させることで、ベンチマークに連動する投資成果をめざしたパッシブ運用を行います。
- エマージング株式パッシブ・マザーファンド  
引き続き、ベンチマークの動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行います。
- エマージング債券パッシブ・マザーファンド  
引き続き、ベンチマークの動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行います。
- J-R E I Tインデックスファンド・マザーファンド  
引き続き、リートの実質組入比率を高め、ベンチマークに連動する投資成果をめざした運用を行います。ベンチマークの構成銘柄の変更に応じたポートフォリオのリバランスを行い、資金の流入・流出に応じたきめ細かなポートフォリオ調整を実施し、ベンチマークと同等のリスク特性を維持するよう努めます。
- 外国リート・パッシブ・ファンド・マザーファンド  
引き続き、ベンチマークに連動する投資成果をめざしたパッシブ運用を行います。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合（インデックス型）	
信託期間	2013年11月8日から無期限です。	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	DIAM 8資産バランス ファンドN < D C 年 金 >	以下の各マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	国内株式パッシブ・ファンド (最適化法)・マザーファンド	東京証券取引所第1部に上場されている株式を主要投資対象とします。
	国内債券パッシブ・ ファンド・マザーファンド	わが国の公社債を主要投資対象とします。
	外国株式パッシブ・ ファンド・マザーファンド	海外の株式を主要投資対象とします。
	外国債券パッシブ・ ファンド・マザーファンド	海外の公社債を主要投資対象とします。
	エマージング株式 パッシブ・マザーファンド	海外の証券取引所に上場している株式*を主要投資対象とします。 ※DR（預託証券）もしくは株式と同等の投資効果が得られる権利を表示する証券および証書等を含みます。
	エマージング債券 パッシブ・マザーファンド	新興国の公社債を主要投資対象とします。
	J-REITインデックス ファンド・マザーファンド	東京証券取引所に上場し、東証REIT指数に採用されている（または採用予定の）不動産投資信託証券を主要投資対象とします。
	外国リート・パッシブ・ ファンド・マザーファンド	日本を除く世界各国の不動産投資信託証券*を主要投資対象とします。 ※海外の証券取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている不動産投資信託証券とします。
運用方法	主としてマザーファンドへの投資を通じて、実質的に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券に投資し、基本アロケーションによる合成ベンチマークに概ね連動した投資成果をめざして運用を行います。実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
分配方針	決算日（原則として1月11日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。	

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2016年1月～2020年12月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

### \*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容（2021年1月12日現在）

#### ◆組入上位ファンド等

（組入ファンド数：8ファンド）

	当期末
	2021年1月12日
国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド	55.6%
国内株式パッシブ・ファンド（最適化法）・マザーファンド	10.7
外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンド	10.7
その他	23.0

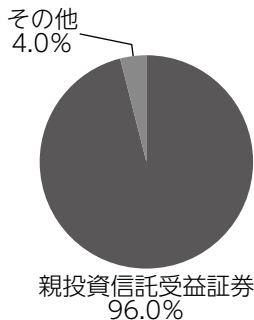
（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）組入全ファンドに関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されております。

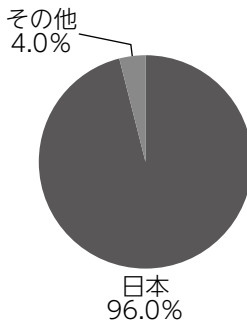
（注3）組入上位以外のファンドはその他に含めて集計しています。

（注4）現金等はその他に含めて表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

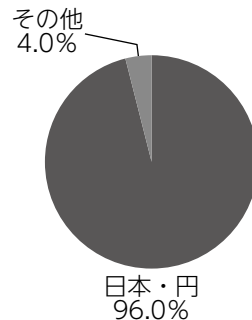
#### ◆資産別配分



#### ◆国別配分



#### ◆通貨別配分



（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

### 純資産等

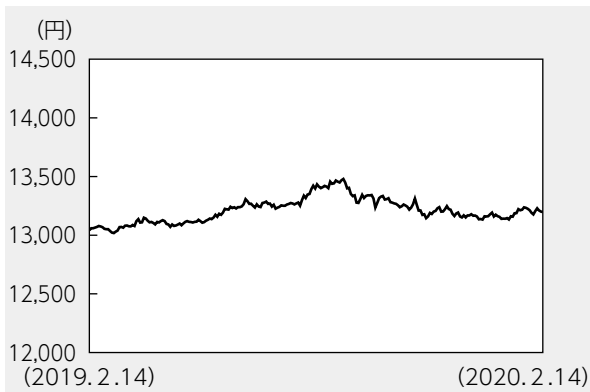
項目	当期末
	2021年1月12日
純資産総額	8,276,661,558円
受益権総口数	6,231,523,574口
1万口当たり基準価額	13,282円

（注）当期中における追加設定元本額は1,243,268,765円、同解約元本額は377,079,219円です。

## 組入上位ファンドの概要

[国内債券パッシブ・ファンド・マザーファンド] (計算期間 2019年2月15日～2020年2月14日)

### ◆基準価額の推移



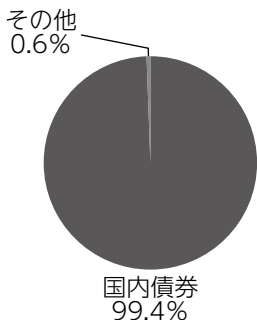
### ◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
350回 利付国庫債券(10年)	日本・円	1.0%
128回 利付国庫債券(5年)	日本・円	1.0
129回 利付国庫債券(5年)	日本・円	1.0
342回 利付国庫債券(10年)	日本・円	0.9
344回 利付国庫債券(10年)	日本・円	0.9
341回 利付国庫債券(10年)	日本・円	0.9
340回 利付国庫債券(10年)	日本・円	0.9
335回 利付国庫債券(10年)	日本・円	0.9
346回 利付国庫債券(10年)	日本・円	0.9
351回 利付国庫債券(10年)	日本・円	0.8
組入銘柄数	384銘柄	

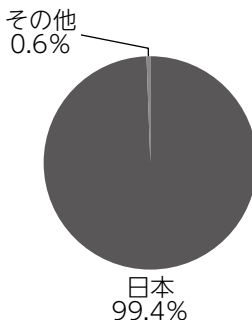
### ◆1万口当たりの費用明細

計算期間中に発生した費用はありません。

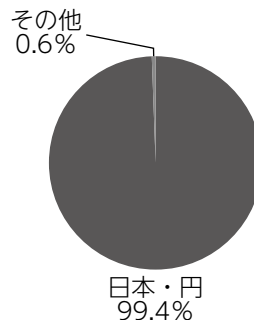
### ◆資産別配分



### ◆国別配分



### ◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

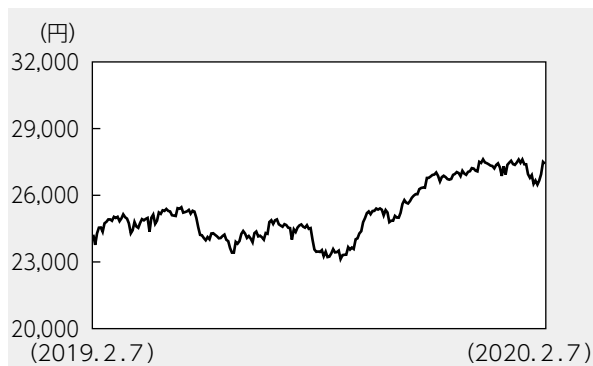
(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注5) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

【国内株式パッシブ・ファンド（最適化法）・マザーファンド】（計算期間 2019年2月8日～2020年2月7日）

◆基準価額の推移



◆組入上位10銘柄（現物）

銘柄名	通貨	比率
トヨタ自動車	日本・円	3.5%
ソニー	日本・円	2.0
ソフトバンクグループ	日本・円	1.6
三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本・円	1.6
武田薬品工業	日本・円	1.5
日本電信電話	日本・円	1.5
キーエンス	日本・円	1.4
リクルートホールディングス	日本・円	1.2
三井住友フィナンシャルグループ	日本・円	1.1
KDDI	日本・円	1.0
組入銘柄数	2,151銘柄	

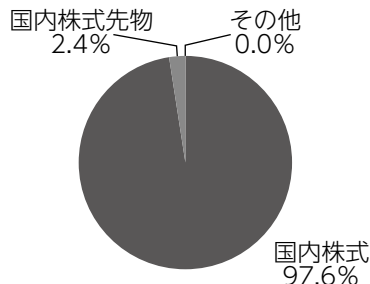
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	0円	0.002%
(株式)	(0)	(0.000)
(先物・オプション)	(0)	(0.002)
合計	0	0.002

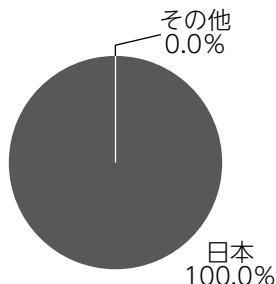
◆組入上位銘柄（先物）

銘柄名	売買	比率
TOPIX	買建	2.4%
組入銘柄数	1銘柄	

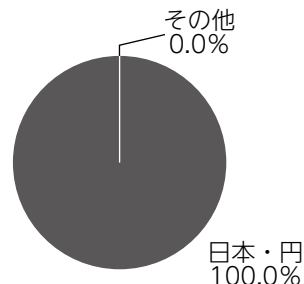
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（25,270円）で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ（1万口当たりの費用明細）をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 国別配分、通貨別配分については、現物と先物の比率を合計して表示しています。

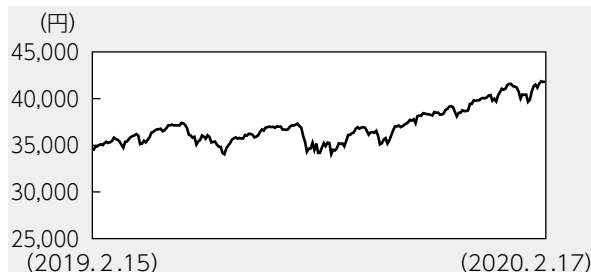
(注6) その他は、純資産総額を100%として、現物と先物の比率を差し引いたものです。

(注7) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

【外国株式パッシブ・ファンド・マザーファンド】

(計算期間 2019年2月16日～2020年2月17日)

◆基準価額の推移



◆組入上位10銘柄 (現物)

銘柄名	通貨	比率
APPLE INC	アメリカ・ドル	3.4%
MICROSOFT CORP	アメリカ・ドル	3.1
AMAZON.COM INC	アメリカ・ドル	2.1
FACEBOOK INC	アメリカ・ドル	1.2
ALPHABET INC-CL C	アメリカ・ドル	1.1
ALPHABET INC-CL A	アメリカ・ドル	1.0
JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ・ドル	1.0
JOHNSON & JOHNSON	アメリカ・ドル	0.9
VISA INC	アメリカ・ドル	0.8
NESTLE SA-REGISTERED	スイス・フラン	0.7
組入銘柄数	1,321銘柄	

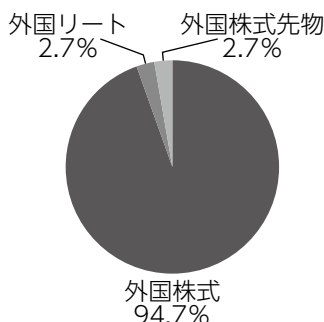
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	1円	0.002%
(株式)	(0)	(0.001)
(先物・オプション)	(0)	(0.001)
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)
(投資証券)	(0)	(0.000)
(b) 有価証券取引税	1	0.004
(株式)	(1)	(0.004)
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)
(投資証券)	(0)	(0.000)
(c) その他費用	13	0.034
(その他)	(13)	(0.034)
合計	15	0.040

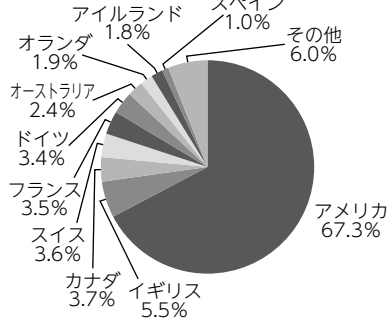
◆組入上位銘柄 (先物)

銘柄名	売買	比率
S&P500 EMINI FUT	買建	2.0%
DJ EURO STOXX 50	買建	0.5
FTSE 100 INDEX FUTURE	買建	0.2
S&P/TSE 60 IX FUT	買建	0.1
SPI 200 FUTURES	買建	0.1
組入銘柄数	5銘柄	

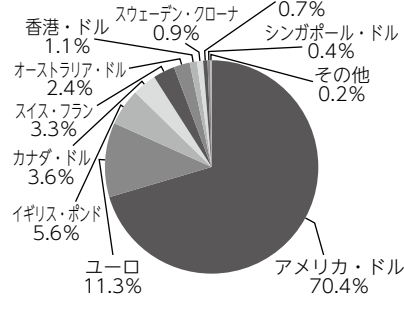
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



- (注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。  
(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(37,077円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。  
(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。  
(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。  
(注5) 国別配分は発行国(地域)を表示しています。  
(注6) 現金等はその他として表示しています。なお、資産別配分については、現金等を考慮しておりません。  
(注7) 国別配分・通貨別配分については、上位11位以下をその他に含めて集計しています。  
(注8) その他は、純資産総額を100%として、現物と先物の比率を差し引いたものです。また、国別配分、通貨別配分については、現物と先物の比率を合計して表示しています。  
(注9) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。



## <当ファンドの合成ベンチマークについて>

- 合成ベンチマークとは、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）、NOMURA-BPI総合、MSCIコクサイ・インデックス（円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし）、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース、為替ヘッジなし）、MSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし）、JPMorgan・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス（円換算ベース・為替ヘッジなし）、東証REIT指数（配当込み）、S&P先進国REITインデックス（除く日本、円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし）、コール・ローン（オーバーナイト物）を基本アロケーションに基づいて委託会社が合成したものです。基本アロケーションについては、前掲の「ポートフォリオについて」をご参照ください。
- 経済環境、運用環境見通しの大きな変更等により委託会社が必要と判断した場合には、基本アロケーションの見直しを行うことがあります。
- 東証株価指数（TOPIX）および東証REIT指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXおよび東証REIT指数の商標に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、(株)東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、(株)東京証券取引所は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。
- NOMURA-BPI総合の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- JPMorgan・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. Morgan・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。
- S&P 先進国REITインデックスは、S&P Globalの一部門であるS&P ダウ・ジョーンズ・インデックスLLCまたはその関連会社（「SPDJI」）の商品であり、これを利用するライセンスが委託会社に付与されています。Standard & Poor's®およびS & P®は、S&P Globalの一部門であるスタンダード・プアーズ・ファイナンシャル・サービシーズLLC（「S & P」）の登録商標で、Dow Jones®は、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングズLLC（「Dow Jones」）の登録商標です。本商品は、SPDJI、Dow Jones、S & P、それらの各関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S & P 先進国REITインデックスのいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

## &lt;代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について&gt;

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(このページは白紙です)

